

茨城県国際理解教育推進協議会  
会長 川俣 勝慶 殿

## ワールドキャラバン国際理解教育実施報告書

学校名茨城県立美浦養護学校 担当教諭名 明瀬 由武

「ワールドキャラバン」国際理解教育については、下記のとおり実施しましたので報告します。  
記

実施日時	平成24年02月24日(金) 10:00 ~ 13:30
対象学年と人数	中学部2年生 23人 高等部全学年 78人 教職員 44人
派遣講師名と出身国	カンボジア アフガニスタン エチオピア マラウィ タンザニア アルメニア から7名が参加
活動の内容	●はじめの会(高等部生はいったん視聴覚室に集まり、各学年に入る研修員との顔合わせがあった) ●学年交流(中学部2年、高等部全学年、各学年に1人ないし2人の研修員が参加しての交流が行われた。生徒の自己紹介、日本の文化(スポーツ、食べ物、遊び等)の紹介、研修員から、自己紹介、当該国の文化等についての講義をいただいた。そのあと、一緒にレクリエーション(ゲームやダンス等)を行った。 ●会食会 それぞれの学年に入って給食をいただきながら、会話を楽しんだ。(なお、給食は肉を使わずに、魚をメインにしたメニュー。)
今回実施されたワールドキャラバンについて評価	ワールドキャラバンを高等部の行事として5年以上行っており、その成果も着実に出ています。
生徒・保護者等参加者の感想	アンケートを集約したものから文章化したものを添付します。 『カンボジア、マラウィの人と交流しました。日本語を話していたのにびっくりしました。コムさんは面白い人でした。セブンスステップスのダンスが楽しかったです。ソーラン節を踊って見てもらいました。一緒に剣玉をやりました。この次は日本のお茶、折り紙、カラオケ大会をしたいです。担任の先生が英語で話していたので、僕も英語で話したいと思いました。』 『タンザニアのコロワさんと交流しました。タンザニアは二つの国が一つになってできた国というのを知りました。また、タンザニアには地震がないというのを知りました。ブタを食べないことや、わらの家に住んでいる人がいることも知りました。日本の方が住みやすそうでした。この次はタンザニアのゲームやドッチボールをしたいです。英語も話せるようになりたいです。』 『肌が茶色いのを見ました。「ゴロロ」という布をまとっているのを見ました。この次は外でゲームをしたいです。また、別の国の人と交流してみたいです。アメリカ人が来るといいです。』
先生の感想	通訳が3名(各学年に)入ってくださって助かりました。通訳が不足した高等部1年では、教科が英語の教員が行ったが、それほど不都合はなかったものと思われます。 なによりも研修生の方のあたたかい心と本校生徒の素直な心が交流成功の一番の要素と思われます。

